

〈 科 目 〉

【実技（描画表現）】

◆出題方針

描画表現は、デザインに必要なプロセスであり、アイデアを確認し人に伝えるためのコミュニケーションテクニックのひとつです。基礎的な描画をとおして、デザインに対する関心やデザインを学ぶ意欲を確認するため、高校での美術の授業や身近にある日用品を描くなどの練習によって解答できる範囲で出題しています。

◆出題形式

2024年度の描画による実技試験は、実際に目の前に置かれたモノを描くのではなく、文章や図からイメージして描画する問題でした。

内容は、問題から描画の対象とその状態（形・大きさ・材質・数・配置など）を読み取り描画する設問や、日用品に図柄などをデザインして描画する設問です。配布された画用紙にイメージする解答を、鉛筆と色鉛筆を用いてフリーハンドで描画する方法です。

2025年度は、総合型選抜および外国人留学生選抜は、従来の内容と同じですが、2月前期選抜および3月選抜は、従来の内容の問題と、各自の机の上に置いたモノを見て描く問題のどちらか得意な方を選んで解答できる方式になります。

◆出題内容・設問解説

条件や描画ポイントをしっかり押さえることが重要です。次に、条件設定を確認し、イメージをしっかりと伝えることができるように工夫することです。

基本としては、画用紙のどの位置にどのくらいの大きさを描けば、効果的に見えるかを検討します。描画時には、モノの材質感や存在感を考慮して、色の重ね塗りを考えることは、重要です（色鉛筆を用いることは条件）。立体感を表現するために、陰影の強弱などを考えたりしながら仕上げていきます。

なお、全ての問題については、描画要素（条件遵守）、描画力（構図・質感・陰影）などの項目に分けて採点をしています。